

令和6年度 第1回苫小牧市総合戦略推進会議 議事録要旨

- 【日 時】 令和6年9月20日（金）13:00～15:00
- 【場 所】 苫小牧市役所5階 第2応接室
- 【出席者】 奥村会長、菊田副会長、荒川委員、五十嵐委員、工藤委員、五嶋委員、佐藤(聡)委員、三浦委員、柴田委員、齊藤委員、中村委員、長山委員、成田委員
- 【事務局】 苫小牧市 総合政策部 町田部長、
政策推進室 茶谷室長、
政策推進課 大宮課長、早出課長補佐、水谷主査、林川主事

議 事 次 第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議題
 - (1) 第2期人口ビジョン及び総合戦略の検証について
 - (2) アンケート集計結果について
 - (3) 第3期人口ビジョン及び総合戦略骨子(案)について
 - (4) 今後のスケジュールについて
 - (5) 意見交換
- 4 その他
- 5 閉会

3 議題

(1) 第2期人口ビジョン及び総合戦略の検証について

(2) アンケート集計結果について

※上記に対する質疑

<C委員>

4ページの人口の推移及び合計特殊出生率について、札幌市を除いているが、何か意図があるのか。

<政策推進課長>

政令指定都市ということで、人口規模が大きいことから、この資料では除いているところではあるが、札幌市を含めた比較は可能なため、改めてご開示させていただく。

<D委員>

アンケートの対象について、20歳から39歳の市民とあるが、最近は40歳以上で出産される方も多い中、なぜこの年齢を基準にされたのか。また、子育てしやすい職場環境の整備について、様々な要望があると思うが、詳細を把握されているのか。

<政策推進課長>

過去の総合戦略も同じ対象年齢にアンケートを実施しており、経年比較を行いたいという理由で、対象年齢は変えないで実施したところ。一方、委員ご指摘の部分についても、貴重な要素だと思うので、そうした方々の意見も拾えるように今後考えたい。

また、子育てしやすい職場環境の整備については、自由記載としている部分もあるので、改めて共有させていただく。

<D委員>

苫小牧への交通費が高いという声がある。札幌市から見ると、千歳市まではリーズナブルな金額で割と移動しやすいが、苫小牧まで来るのに少しの距離の差で交通費が高くなる。将来的に改善していくような見通しはあるのか。

また、札幌から苫小牧高専に通う子が多い中で、転出される学生が多いというアンケート結果であるが、市内の学校に進学することにどのようなハードルがあるのかお聞きしたい。

<総合政策部長>

基本的に札幌・苫小牧間はJRまたはバスということになるが、行政の立場で金額を要望できる立場にない。市としては、新千歳空港から苫小牧までのスルー化を重点課題とし、JRと国に要望している。それが実現すれば、料金が下がる可能性はあるが、まだ計画にも至っていない段階のため、現時点で料金を下げるところには、至らないというのが正直なところ。また、バスについても、中央バスと道南バスが走っているが、苫小牧市民の足を考えたときに、料金が高くなかなか利用できないというのがあるため、今後も粘り強く、要望していきたいと考えている。

<政策推進課主事>

10代、20代が市外、道外に学業を理由に転出する傾向が多い要因について、アンケートの中で最も多かったのが、市内での進学にあたり、行きたい学部がないことや、自分がやりたいことを学べる環境がないという回答であった。

<1委員>

市内の高校・大学等の学生に対するアンケートについて、転出する理由の2位に「自分の仕事・事業のため」とあるが、市内に自分の希望する業種がないや、賃金格差があるなど、その要因が分析できると学生の方々が市内に残ってもらえる可能性もあると思う。

また、1位に「通学のため」とあるが、希望する学校が札幌にあるということで、行くのは仕方ないが、どう戻すかという意味で、なぜ戻ってこないのかというトレースが取れると人口の増加につながると思う。

<政策推進課長>

アンケートの中では、企業についての認識も聞いている。その中には、認識しているものと認識していないものと両方ある。市内には魅力的な企業が多くあるので、学生にどのように周知し、認識いただけるかというのは、非常に重要な取組だと思う。また、転出した学生をどう戻すかというのも、皆様のご意見を踏まえながら、次期戦略の中でも考えていきたい。

(5) 意見交換（質疑を含む）

<A委員>

現在、晩婚化の状況にある。40、50歳を過ぎても結婚していない方や、結婚願望がない若い方も多い。そういう方に話を聞くと、結婚して子どもを産んでも育てることができない、給料は安く、保育園にも入れられないということがある。

結婚に対する抵抗が、特に若い方は増えていると感じる。昔は結婚するのが当たり前だったが、今は結婚しなくても自分一人で暮らしていくことができる。それでも、やはり子どもを産み、育て、この苦小牧に後の世代を受け継ぐことをやっていかなければ、我々の時代で衰退してしまい人口は減っていく。最近、地方から若い方も来ており、話を聞くと、苦小牧の食べ物やお水を美味しいと言ってくれる。それを多くの方に宣伝し、来ていただくことが大事だと思う。皆さんに苦小牧を知っていただくという取組が必要だと思う。

<B委員>

転出超過とあったが、気になったのは30代から50代の転入が多い。そして、転出理由が仕事であれば、転勤等で外部から転入したとしても、定住してもらえないという課題があると思う。

また、住みやすさのアンケートでは、住みやすいとの回答が多かったが、定住の戦略についても、住みやすさと関連させ第3期総合戦略を進めていくと良いのではないかと。

<C委員>

第3期総合戦略について、駅周辺エリアの再生は話題。多くの方が努力されているが、苦小牧駅南側の都市構想は、私自身は難しいものがあると思う。人が集まる魅力の構想であれば、JR貨物の船見側に大きな敷地があるが、そういうところを利用して新たな駅を造ると、フェリーターミナルからも近く、イオン側にも行くことができる。

東側に、お店が多くできているので、東側を中心とした新しい駅周辺エリアの魅力づくりも考えた方が良いのではないかと。

また、これから人口を増やすには、出生率を上げる必要があり、そのために出会いの場を設けなければいけないと思う。札幌市では、婚活支援センターを市で運営しており、評判が良いと聞いている。第3期総合戦略に可能であれば、盛り込んでいただきたい。

最後に、アンケート調査の中で、子供の数が増えると思う施策・対策ということで、子育てに伴う経済的負担の軽減が多くの割合を占めているが、この部分は、年収もあわせた分析が必要だと思う。

<D委員>

総合戦略の柱が弱いと感じる。商業圏の問題や雇用、福祉、保育といったところを、ベースに考えてつながりを作っていく必要がある。出生数が上がっている自治体は、子育て支援広場などの取組を進めているので、根っこの部分を調べていくと良いと思う。

また、駅前が非常に重要だと思うが、市外の人から見るとイメージが悪いので、しっかりと整備していくことと、導線を作っていくことが必要だと思う。大学、高専があるところも魅力的なところなので、研究機関と連携しやすいようなハブになる駅づくりも見据えると良いのではないかと。

企業誘致に関しては、ラピダスを中心に苦東は注目されているが、視察に来るだけでも初期投資ということになるので、何かしらの補助がないと、足を運んでももらえないのではないかと。また、起業・創業しようと思っても、補助金が弱い、使い勝手が悪いというような状況が実際にあるので、創業しやすいころまでつなげていただくことで、企業の誘致が伸びてくると思う。

千歳市は、子育ての窓口や児相につなぐ連携の枠組みを作っているが、そういう部分が苦小牧市では少し弱いのではと感じている。

最後に、マッチングアプリは、婚姻率の引上げになるというエビデンスは出ているが、コミュニケーションスキルによって離婚に至っているケースもあるとのことなので、そこも考えた上で、婚活支援をやっていけると良いと思う。

<E委員>

アンケートの結果からも苦小牧市に仕事でこれだけ人が出たり入ったりしているので、企業誘致は重要になってくると思う。

先日、東京が本社のメーカーが、ニセコに本社を移し、その代表の方は家族ごとニセコに引っ越したという記事を見たが、教育や福祉なども含めて住みよいまちというのが重要。

苦小牧市の場合は、企業が来てもらうために、子供たちがのびのび教育できる環境や、過ごしやすさ、交通利便性など、枝葉の部分に取り組みながら苦小牧の良いところをアピールしていけると良いのではないかと。

<F委員>

私自身が苦小牧出身ではなく、苦小牧高専を卒業し、苦小牧で就職をした。当時のクラスメイトも就職先は道外が多かったというのも事実。今は状況が異なっているのかもしれないが、地元の企業があつて、もっと選択肢があると状況は変わるのかなと思う。ただ、仕事を辞めて、戻ってきた者も何人かいるので、地元の魅力はあると思う。

また、親御さんの転勤で子供たちも動かなければいけないこともあると思うが、それらも含めて定着するような取組を次の第3期につなげていただければ。

<G委員>

昨年末、苫小牧市が脱炭素先行地域に選定され、これに対して全面的に取り組んでいかれるものと考えており、苫小牧市民として期待している。

個人的な感触になるが、ラピダスをはじめとして、苫小牧市あるいは千歳地区に企業が進出し、産業都市としてこのような産業が今後も増えてくる。

ただ、高付加価値な産業が進出したときに、例えば、ラピダスは5兆円の大型投資で、従業員は僅か1,000人。労働集約型の産業ではないので、人口増加に結びつくのかは疑問が残る。

また、人口動態の現在がマイナス1.1%だが、これがプラス1.0%になることが現実的にどうかというのも感じる。結果的には人の奪い合いで、首都圏に人口が集まり、トータルの人口は減っている。転出入も大切だが、一番は人口を増やすこと。子育て支援や子育て環境の充実は、大切なことだと思うので、アンケートでも経済的な支援を必要とする回答が多かったということを見ると、財政は限られていると思うが、何らかの経済的な支援というのも考えていく必要があるのではないか。

最後に、地方を活性化させるのは、人が集まることと物が集まること、それからお金が集まるのが、大切である。総合戦略に限らず、他自治体の戦略では、人や物を集める戦略というのは多いが、金を集める戦略はあまり無いような気がする。

<H委員>

有効求人倍率について、苫小牧市と管内6町の合計の数字となるが、倍率が1.1倍前後と昨年度とほぼ同じぐらいで推移し、引き続き人手不足の状況である。業種によっては2倍、3倍、あるいは4倍以上と高い数字になっている。特に医療、介護、福祉の分野、あるいは建設、運輸、これらの求人倍率は相変わらず高い状況で人手不足の状態にある。また、求人数と求職者については、両方とも減少しているという状況。

新規学卒については、昨年度とほぼ同じ規模の求人数が現在出てきている。昨年度の管内における学卒の求人倍率は、2.16倍だったが、現在も既に2倍を超えている。ひとりでも多くの生徒が管内企業へ就職ができるよう、学校や関係機関と連携して支援していきたい。

高専や技術系の生徒は、道内に就職している数が3割程度と少ない。7割は道外に出ているという現状で、半導体企業、あるいは関連する企業の進出などの話があり、どういった支援が必要かなどを北海道労働局やハローワーク千歳、千歳市、苫小牧市と一体となって取り組んでいきたい。

また、ハローワークでは失業された方への給付以外に、育児休業の給付金などの制度による支援も行っている。来春からこの育児休業給付金に新たな制度が追加される予定であり、共働き・共育ての推進として、苫小牧市や関係機関と周知・連携をし、活用に向けて取り組んでいきたい。

< I 委員 >

仕事柄、道内の自治体を回っているが、苫小牧市は良いよねと言っただけ。しかし、数字で見ると苫小牧市の人口は減少しているということだが、世の中の報道では2050年に消滅する自治体が多くあり、そのような中で人口が保っているのは、市役所や関係機関の皆さんの活動の成果かなと思う。

第3期の骨子では、従来からの問題、課題に加えて、ゼロカーボンやデジタル化という新たな課題の中で、引き続き今のような成果が出るような活動をいただけるとありがたい。

< J 委員 >

アンケートの結果について、どちらかといえば住みやすい、あるいは住みやすいと答えている方が80%以上いるというのはすごいこと。その中で、転出される学生、高校生の意見としては、通学のためや、自分の仕事、事業のためという方が昨年に比べて増えているのは、厳しい状況でもある。理由として、行きたい学部がないなども挙げられているが、一方で学校に行けていない子供たちというのも結構多くいると聞いている。韓国では代案学校というのがあると聞いていて、学校に行けていない子供たちにキャンパスを提供し、学んでいるので、こういった施策もありではと思う。

また、駅前の開発に関しては魅力があるし、市として早急に推進していただけると、まち全体の活性化につながると思う。

最後に、地方に仕事をつくることについて、私もFMとまこまいを開局したが、新しく苫小牧に起業した一つの企業としては、皆様に認知していただいている。市と防災協定も結ばせていただき、市民の命を守るために起業した。市民の皆さんに対して有効に活用いただけるコミュニティーの一つとして、苫小牧の魅力の創出の一助になればと思う。

< K 委員 >

急激な人口減少による様々なサービスの低下や住環境の低下、これは今私たちが想像するものをよりはるかに超えて、住みにくくなるような問題が起きるのではないか。人口減少のデメリットは、予測を超えてくると思うが、一つの何かをやっただけで人口が増えるとは思にくい。

企業誘致は、千歳市にラピダスが来て、千載一遇のチャンスだと思う。これだけで大きく変わるとは考えられないが、これに付随して関連企業がもっと進出していただけないか。千歳市では受入体制が進んでおり、現在人口が9万8,000人だが、これを2年前倒しで2028年に10万人達成と上方修正している。苫小牧市も新たな企業や関連企業を呼び込むことで、若い方たちの働く場所や他市からの移住など、人口を減らさないようにするという意気込みで取り組んでいただきたい。

<L委員>

高専も一生懸命PRをして、市内の中学校をはじめ、周辺自治体、さらには札幌市周辺まで行って学校のPRをしている。結果として、3割ぐらいの学生が苫小牧市内から通学している。著しく進んでいる少子化が一番の問題で、少子化そのものを解決していかないと、人口は増えていかない気がする。

また、7割ぐらいが卒業後に本州に行ってしまう。地元に残る、北海道に残るという学生は3割ぐらいしかいない。ただ、千歳市にラピダスが進出するというので、今年から学生もラピダスに行きたいと就職希望する学生がかなり出てきた印象がある。

さらに、大卒と同じような資格が取れる専攻科があるが、地元で勉強を続けていきたいというような声が多く聞こえてくるような気がする。

学校でもアントレプレナー教育をやっているが、ゼロから学生が起業するのは非常に難しい。苫小牧市の企業の方々がタッグを組んで、何か共通の目標を持ってベンチャー企業を立ち上げやすいような雰囲気、機運をつくっていくようなことをやると、学生の意識も変わって、地元定着に拍車がかからないかと思ったところ。

<M委員>

少子化の世界一は韓国で、その次に、シンガポール、次が日本という形で、少子化のワースト3に日本が入っている。高齢化では、モナコが1位で、次に日本、次にドイツ、イタリアが3位争いをしている。世界的に少子化高齢化が一番進んでいるのが日本ということになる。

総合戦略推進会議の必要性、意義としては、データや検証結果を大切にしながら、いかに人口を増やすか、減らさないかがこの戦略会議の一番重要なポイントである。私たちがそれぞれの立場から知恵を絞り、第3期総合戦略に向けてまとめていければと思う。

そういった中で、総合戦略の中で特に目につくのが各KPIの数値である。数値が先行しているが、その数値が出てきた背景、根拠を今一度掘り下げて考え直すときではないかと思う。そのプロセスで何が重要なのか、何を見落としているのか、もっとKPIの数値よりも重要なものがあるのではと思う。

<政策推進室長>

皆様から、様々なご意見をいただいた。並行して、アンケート結果の詳細な分析、これまでの取組の検証、新たな取組の必要性について、全庁的に調査を進めている。

その中では、皆様からいただいたご意見と同じような話も出ており、また、皆様からのお話の中には新しい視点の話もあったところ。これらを踏まえて第3期総合戦略の策定に向けて取り組んでまいりたい。

また、他市の実際の取組について、成功事例、失敗事例なども調べているので、それらも踏まえながら作成してまいりたい。